

エプソン統合レポート2024 編集方針

編集方針

エプソンは、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーの皆様へ、エプソンのパーパスへのご理解を深めていただくとともに、皆様との対話を通じて施策を磨き上げ、さらなる企業価値の向上への好循環を生むことを目的に、統合レポートを制作・発行しています。

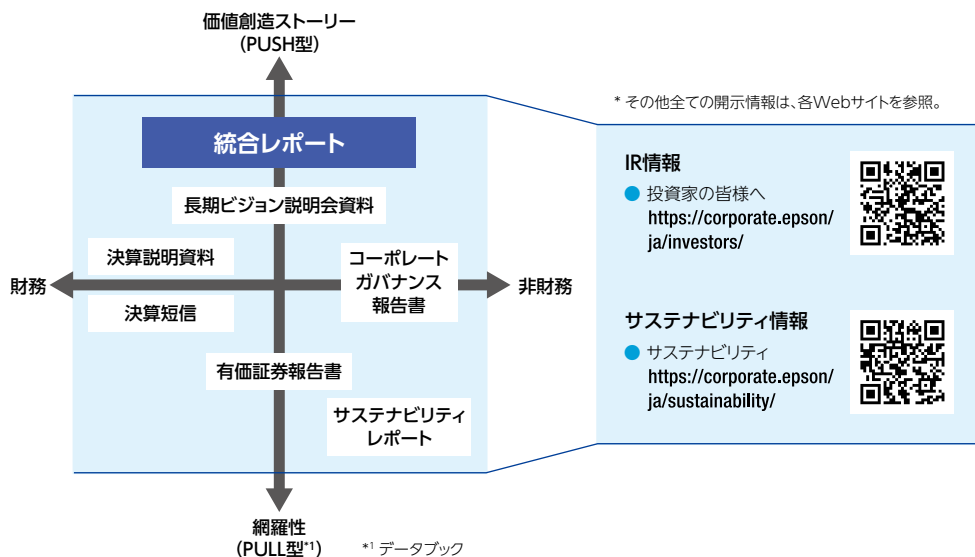
エプソン統合レポートは、2017年の発行開始以来、統合思考に基づいた財務・非財務情報の訴求および情報の網羅性を意識して編集してきました。編集に当たっては、経済産業省の「価値協創ガイダンス」や、国際統合報告評議会（IIRC）の「国際統合報告フレームワーク」の考えを参考にするとともに、対話を通じて皆様から頂戴した貴重なフィードバックを参考にし、常に改善を続けてきました。

昨年度、制作したエプソン統合レポート2023を用いて株主・投資家の皆様との対話を通じていただいたご示唆に対して、今年度統合レポートで開示に取り組みました（以下開示強化ページの列挙を参照）。本レポートを通じ、エプソンの取り組みを知っていただき、皆様との対話のきっかけになれば幸いです。

統合レポート2023をもとにした対話でのご示唆を受けて開示を強化したページ

- GHG削減貢献量の算定と開示 P.29、30、40で開示
- DXの進捗 P.49、50で開示
- 経営戦略と連動した人材戦略 P.51～P.56で開示
- 人権の取り組みの開示強化 P.57、58で開示 など

主な企業情報開示媒体と位置付け(情報開示体系)

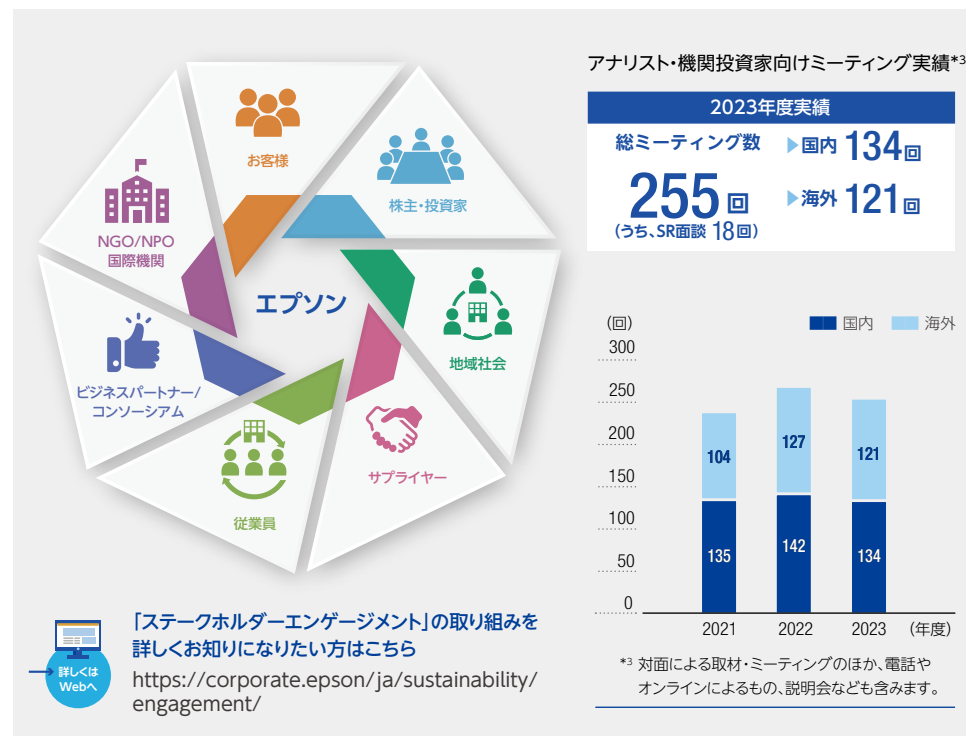


ステークホルダーエンゲージメント^{*2}の向上「株主・投資家との対話」

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するためには、あらゆるステークホルダーとの誠実な対話を通じ、経営の透明性を高め、長期視点での信頼関係・パートナーシップを構築し、強化していくことが、重要かつ不可欠であると認識しています。その取り組みの一環として、株主・投資家などに対する情報開示方針を明確にして、IR活動やSR活動のさらなる充実を図り、建設的な対話を実施しています。対話を通じていただいた株主・投資家の皆様からのご意見は都度経営層にフィードバックし、経営の質を高める取り組みに活かしています。

私たちが直接お会いできる株主・投資家の皆様の数は限られていますが、より多くの方に当社の考えを伝えるべく冊子やWebサイトなど、ツールを通じたコミュニケーションを積極的に行っています。特に、多くの方々に、同時に情報を伝えられるWebサイトの作成には力を入れ、IR情報だけでなく、サステナビリティ情報も常に最新の情報に更新しています。

^{*2} 企業とステークホルダーの対話。企業が活動や意思決定を行う上で、ステークホルダーの関心事項を理解するために行われる取り組みを指します。



INDEX

タイトルクリックで、該当ページへ遷移できます。

Introduction

- 1-2 編集方針／INDEX [👉](#)
- 3 私たちのパーパス [👉](#)
- 4 価値創造の歩み [👉](#)
- 5-7 エプソンの今 [👉](#)
- 8 数字で見るエプソン [👉](#)

トップメッセージ

- 9-12 CEOメッセージ [👉](#)
- 13-16 CEO×CSuO×社外取締役鼎談 [👉](#)

パーパス

- 17-18 パーパス [👉](#)

ビジョンの進捗

- 19-20 ビジョンの進捗 [👉](#)

CFOメッセージ

- 21-22 CFOメッセージ [👉](#)

サステナビリティ経営

- 23 価値創造ストーリー [👉](#)
- 24 サステナビリティ経営 [👉](#)
- 25-27 サステナビリティ重要テーマとそのKPI [👉](#)

価値創造戦略

- 28-36 価値創造戦略 [👉](#)

価値創造基盤

- 37-46 環境戦略／技術開発戦略 [👉](#)
- 47-48 知的財産戦略 [👉](#)
- 49-50 DX戦略 [👉](#)
- 51-56 人材戦略 [👉](#)
- 57-58 人権尊重への取り組み [👉](#)
- 59-60 サプライチェーン戦略 [👉](#)

ガバナンスの強化

- 61-64 機関投資家と社外取締役との対話 [👉](#)
- 65-68 コーポレートガバナンス [👉](#)
- 69-70 コンプライアンス [👉](#)
- 71-72 リスクマネジメント [👉](#)
- 73-74 取締役一覧／スキルマトリックス [👉](#)
- 75-76 新任取締役による就任メッセージ [👉](#)

ファクトデータ

- 77-78 財務・非財務ハイライト [👉](#)
- 79-80 主要な財務数値の推移 [👉](#)
- 81 社外からの評価 [👉](#)
- 82 企業データ [👉](#)
- 裏表紙 注釈一覧 [👉](#)

■ 発行時期：2024年10月

■ 対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日
(一部に対象期間外の情報も含んでいます)

■ 対象組織：エプソングループ会社82社(当社含む)

* 本文中「エプソン」と表記した場合はエプソングループを、「当社」と表記した場合はセイコーエプソン株式会社を指します。

* 本レポートに掲載されている画像などの無断転載はご遠慮ください。

免責事項

本レポートには、エプソングループの過去と現在の事実だけでなく、将来の見通しや予想なども記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づく将来の予測であり、実際にはさまざまな要素により、事業活動の結果や事象が予想とは異なったものとなる可能性があります。

私たちのパーパス

「省・小・精」から生み出す価値で 人と地球を豊かに彩る

エプソンは、豊かな自然や文化に恵まれた信州で誕生しました。

そんな私たちが抱き続けてきたもの、それは「省・小・精」の技術で、人々の暮らしを豊かにしたいという想い、そして、自然の豊かさを守り、未来へつないでいきたいという強い想いです。

これまで世界に先駆けてフロンを撤廃するなど、つねに社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。

そのなかで追求してきたエプソン独自の「省・小・精」。

大きいこと、量が多いことだけが豊かさではない。省くこと、小さくすること、精緻さを突き詰めること、

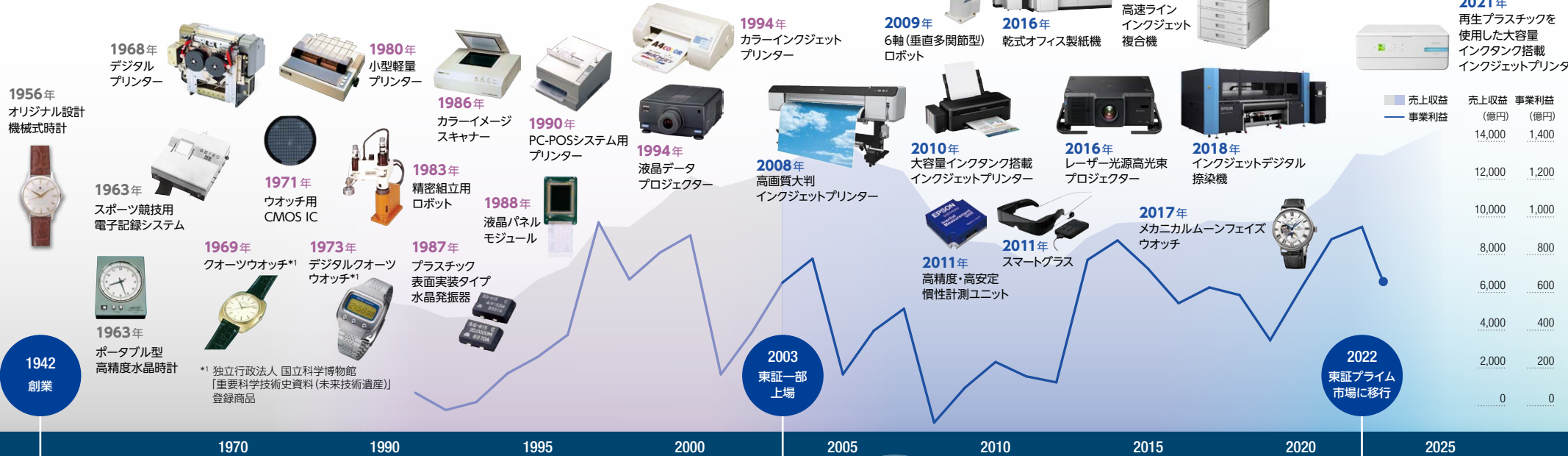
これこそが、自然環境にやさしく、人々のこころを豊かにできるものだと信じています。

「省・小・精」から生み出す、より大きな価値で、人と地球を豊かに彩っていきたい。

私たちは、そんな想いを実現していきます。

価値創造の歩み

1942年の創業以来、エプソンは新たな時代を切り開いていくつもの画期的な製品を生み出してきました。私たちは、これからも社会課題を解決する企業として、「省・小・精」から生み出す価値で、人と地球を豊かに彩る」ことにより、持続可能でこころ豊かな社会の実現に取り組んでまいります。



創業期

誠実努力

ウォッチ技術の開発・確立とプリンター技術の開発

事業拡大期

創造と挑戦

ウォッチ、計時技術からの派生技術を核にした商品・事業の多角化

事業構造の強化

誠実努力・創造と挑戦

真のお客様の期待に応え、なくてはならない会社を目指す

社会課題解決への貢献

社会課題解決を起点とした事業拡大「Epson 25 Renewed」

「省・小・精の技術」の原点

セイコーエプソン(株)の前身である(有)大和工業創立(1942年)

創業者 山崎久夫の志を刻んだ記念碑

ブランド制定、グローバル企業へ

初の海外販売拠点Epson America, Inc.を米国に設立(1975年)

世界に先駆けた環境対応

米国環境保護庁から「成層圏オゾン層保護賞」を受賞(1992年)

新たな時代への躍進

東京証券取引所第一部に株式上場(2003年)

グローバル課題に対する積極的な貢献

エプソングループ全世界の拠点*における全ての使用電力を、再生可能エネルギーへ転換(2023年12月)

*一部、販売拠点などの電力量が特定できない賃借物件は除く

TNFD提言に賛同。TNFDフレームワークに沿って計画の策定を進め、2025年以降の情報開示を宣言(2024年6月)

We are TNFD Adopters

エプソンの売上収益と事業利益 2003年度上場以降の数値は監査済み、2002年度以前は非監査、2012年度までは日本基準での業績を示しています。2013年度より国際会計基準(IFRS)での業績を示しています。

エプソンの今

エプソンは「プリンティングソリューションズ事業」「ビジュアルコミュニケーション事業」「マニファクチャリング関連・ウェアラブル事業」の3つのセグメントで事業展開しています。

イノベーション戦略の実行および事業ポートフォリオ管理による効率的な資金循環により、収益性を確保しながら将来の持続的な成長を目指しています。

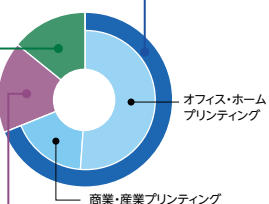
連結(2023年度)

売上収益

1兆3,139億円

事業セグメント別 売上収益構成比*

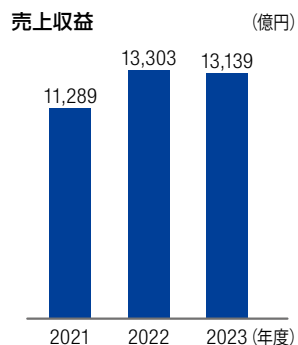
プリンティング
ソリューションズ 69.8%



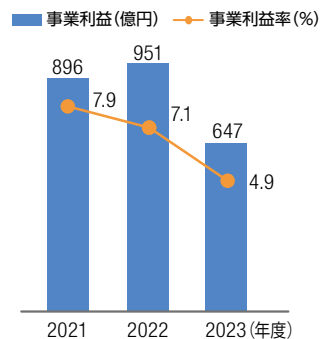
ビジュアルコミュニケーション
16.5%

マニファクチャリング関連・ウェアラブル
13.7%

*売上収益構成比率は、各報告セグメントの売上収益を、各報告セグメント売上収益合計(「全社費用・その他」を含まない)で除して算出しています。



事業利益(率)



研究開発費

442億円

設備投資

700億円

総資産

1兆4,130億円

連結従業員数

74,464人

	事業	主な製品	売上収益	セグメント利益(率)
プリンティングソリューションズ事業	オフィス・ホームプリンティング事業 	オフィス・ホーム用 インクジェットプリンター シリアルインパクトドット マトリクスプリンター ページプリンター カラーイメージスキャナー 乾式オフィス製紙機 これらの消耗品 など	(億円) 2021: 7,799 2022: 9,023 2023: 9,186	(億円) 2021: 1,064 2022: 893 2023: 961 セグメント利益率(%) 2021: 13.7 2022: 9.9 2023: 10.5
	商業・産業プリンティング事業 	商業・産業用 インクジェットプリンター インクジェットプリントヘッド POSシステム関連製品 ラベルプリンター これらの消耗品 など		
ビジュアルコミュニケーション事業	ビジュアルコミュニケーション事業 	液晶プロジェクター スマートグラス など	(億円) 2021: 1,590 2022: 2,168 2023: 2,174	(億円) 2021: 153 2022: 348 2023: 315 セグメント利益率(%) 2021: 9.7 2022: 16.1 2023: 14.5
	マニファクチャリングソリューションズ事業 	産業用ロボット 小型射出成形機 など		
マニファクチャリング関連・ウェアラブル事業	ウェアラブル機器事業 	ウォッチ ウォッチムーブメント など	(億円) 2021: 1,919 2022: 2,154 2023: 1,799	(億円) 2021: 230 2022: 283 2023: △15 セグメント利益率(%) 2021: 12.0 2022: 13.1 2023: △0.9
	マイクロデバイス事業 他 	水晶デバイス (水晶振動子 水晶発振器 水晶センサー など) 半導体 (CMOS LSI など) 金属粉末 表面処理加工		

研究開発費

設備投資

セグメント資産

従業員数

事業領域／事業の方向性



エプソンの強み、価値提供

オフィス・ホームソリューションズ事業

166億円 | 441億円 | 6,288億円 | 49,991人

オフィス・ホームプリンティング

- SOHO・ホーム向けは、上期に販売チャネルによる在庫調整が生じ販売台数が減少
- オフィス共有は、中速帯モデルの投入によりディーラーおよび顧客開拓が進んだことにより伸長
- インクは、コロナ禍における在宅印刷特需が解消したものの引き続き安定的に推移

商業・産業プリンティング

- 幅広いラインアップをそろえた完成品およびプリントヘッド外販が堅調に拡大し増収

オフィスの印刷をレーザーからインクジェットへテクノロジーシフト



- ・消費電力が低く、シンプルな構造で廃棄物が少ないピエゾ方式を採用したプリントヘッドの原理的優位性を活かし、環境負荷低減を実現
- ・高速印刷とメンテナンスのしやすさで生産性の向上

インク代を気にすることなく印刷できる商品の提供



- ・大容量インクタンクモデルで圧倒的に安いランニングコスト
- ・メンテナンス工数の削減

より多くのお客様に向けたソリューションの提供



- ・印刷ニーズに応じたサブスクリプション型サービスの提供
- ・モバイル・クラウドサービスEpson Connectや遠隔管理基盤を活かしたソリューションの提供

オフィスでの紙循環プロセスの実現



- ・乾式オフィス製紙機PaperLabによるオフィスでの紙資源循環

アナログからデジタルへ



- ・インクジェットによるデジタル印刷で、多品種少量生産、環境負荷低減、労働環境改善を実現

トータルソリューションによる商業・産業印刷の実現



- ・導入しやすいトータルソリューションEpson Cloud Solution PORT
- ・独自のカラーマネジメント技術による効率的な色合わせの支援
- ・遠隔監視技術による安定稼働の実現

あらゆる印刷をインクジェットに



- ・高精度、コンパクトで拡張性の高いプリントヘッドと、インクジェット技術を簡単かつ安心して導入いただけるソリューションの提供で、お客様の印刷・生産プロセスの革新を実現

ビジュアルコミュニケーション事業

65億円 | 60億円 | 1,476億円 | 9,325人

- 個人消費の落ち込みによりホーム向けプロジェクターの販売が減少したものの、ビジネス向けや高光束プロジェクターの販売が堅調に推移

文教
公平で質の高い教育環境の構築



- ・ビジュアルコミュニケーションによる対話的で深く学び合う学習環境
- ・あらゆる学びの場が手の届く価格帯のディスプレイ商品群を提供

オフィス・ビジネス
創造性・生産性の高い多様な働き方の支援



- ・壁面をフルに活用した大画面により、オンラインとオフラインがフェアなハイブリッド環境
- ・プレゼンテーションや会議での生産性・創造性向上
- ・基本性能(輝度・解像度・小型)の進化と低TCO化

ホーム
多様なライフスタイルの実現支援



- ・大画面でのオンデマンド視聴を実現できるスマートプロジェクター
- ・高画質・大画面の視聴環境を手軽に実現する設置自由度の高さ

ライティング、サイネージ、アート
映像・光による演出やデジタルアート表現の支援



- ・驚きや感動を提供する圧倒的な大画面
- ・空間の映像・光演出を思い通りに実現できる設置自由度
- ・安心して使用できる機器の高信頼性・維持管理支援

マニファクチャリング関連・ウェアラブル事業

68億円 | 123億円 | 1,724億円 | 11,093人

マニファクチャリングソリューションズ

- 中国における経済減速やローカルメーカー台頭など外部環境変化の影響を受け減収

ウェアラブル機器

- 市況に大きな変化はなく、売上収益は前年同期並み

マイクロデバイス他

- 市場の在庫調整の影響を受け需要が停滞し減収

部品生産～組立～検査を含むコンパクトな生産ライン構築



- ・材料・電力・輸送・スペースの無駄を削減する小型射出形成機
- ・「人の感覚に頼った作業」の自動化を実現する高精度なセンシング技術、ロボット制御技術、画像処理技術

小型・軽量・スリムで省電力と高生産性を両立したロボット



- ・独自の「ジャイロプラステクノロジー」による高い生産性(高速・高精度の動作)
- ・スカラロボット世界シェアNo.1*1を支える幅広いラインアップと各種先進オプション

構想・導入サポート



- ・「省・小・精」の技術に裏打ちされた高性能ロボットと自社のものづくりの現場で培った高品質・高生産性を実現する装置設計力を融合した、高効率で歩留りの高い生産システム提案
- ・使いやすさを追求したGUIや充実のプログラミング機能を備える総合開発環境
- ・グローバルに広がる販売・サービス網による顧客の他地域展開へのサポート

ライフスタイルを彩る



- ・「省・小・精」の技術や匠の技能で、魅力ある上質な商品を提供し、多様なライフスタイルを彩る

高速・大容量通信インフラ



- ・自社の水晶と半導体技術の融合による高精度製品で、高速・大容量通信インフラを支える

IoT社会



- ・水晶・半導体の加工技術を極めた小型タイミングデバイスの提供により、IoT社会を支える

モビリティ社会



- ・正確な位置精度で、車、建機、農機、搬送機などの効率化・生産性向上に貢献
- ・電気自動車の普及に貢献し、CO₂を削減

完成品価値向上



- ・エプソンの完成品価値向上
- ・イノベーションを支える

*1 産業用スカラロボットの2023年の金額および数量ベースの出荷実績において(株式会社富士経済「2024年版ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望」調べ)

PICK UP

プリンティングイノベーションの エコシステムで持続的に価値を創出

エプソンは、圧倒的なコストパフォーマンスと環境性能を有するマイクロピエゾプリントヘッドをコアデバイスとして、インク、制御システム、画像処理、精密加工や生産技術などの基盤技術を磨き、幅広いアプリケーションに展開できるインクジェットプラットフォームを創り上げ、世の中の印刷プロセスをアナログからデジタルへと変えてきました。エプソンのマイクロピエゾプリントヘッドは、熱を使わずにピエゾ素子の機械的な動きによって微小なインク滴を吐出するため、印刷用インクだけでなく、バイオ材料や金属インクなどにも適応します。自社のプリンターに搭載するだけでなく、外販ビジネスを通じてパートナーに提供したり、協業・オープンイノベーションを行ったりすることで、エプソンのインクジェット技術の利用範囲を広げています。

加えて、コアデバイスを活かすソリューションやオプションの開発と提供にも力を入れています。例えば、正確に色合わせを行う作業は、経験や勘など、特定オペレーターに依存するケースが多く、お客様先でも色合わせの難しさが課題として挙がっていました。そこでエプソンは、スポットカラーも含めた色を測り、数値化する測色器を上市しました。さらに測色器で測った色のデータを、Epson Cloud Solution PORTを経由してAdobe® Illustrator®で活用できるようにすることで、印刷現場またはデザインデータのある場所いなくとも色合わせができるという、遠隔での高精度かつ効率的なカラーマネジメントを可能にしました。こうしたコアデバイスを活かすオプション、ソリューションを自社で作り上げ、インクジェットプラットフォームをさらに磨き上げ続けている点もさまざまな事業や技術を有しているエプソンならではの強みといえます。



Epson Cloud Solution PORT

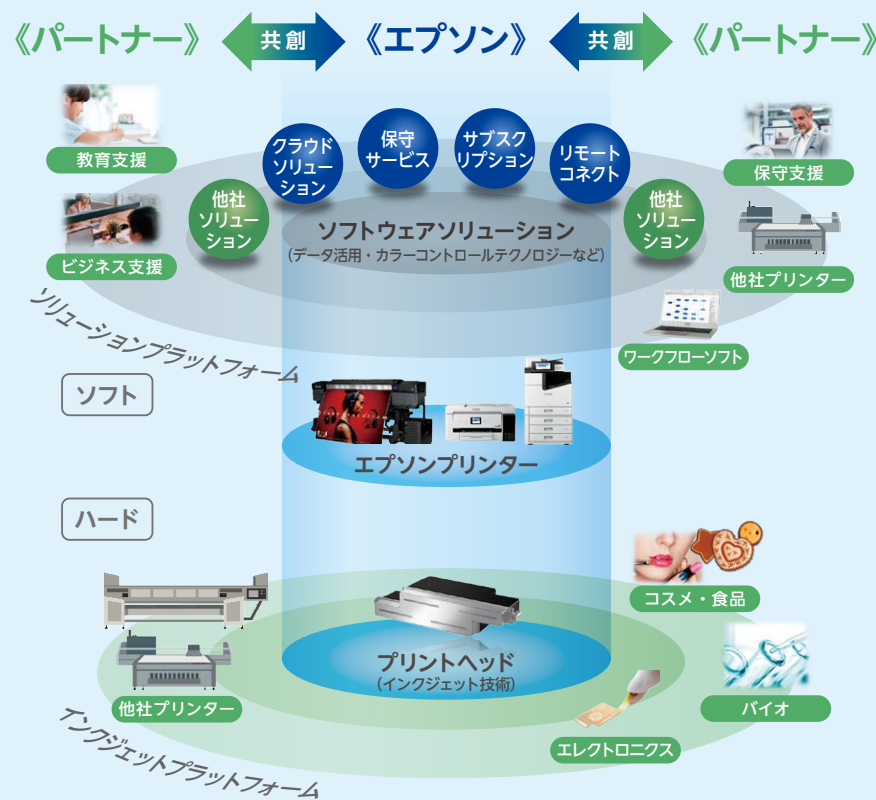


測色器 SD-10

気候変動や資源枯渇を筆頭とした環境問題への対応は急務です。また、ライフスタイルの多様化により、多品種少量生産へのニーズが高まっています。これらの社会課題に対応するため、あらゆる生産プロセスの革新が求められています。

エプソンは、印刷のデジタル化を主導するなど、お客様の印刷プロセスや生産プロセスを革新することで、生産性向上と環境負荷低減を両立した持続可能な社会の実現に取り組んでいます。これまでビジネスを展開していた領域を超え、より多くの社会課題の解決に貢献するため、プリントヘッドの外販を強化するなど、協業・オープンイノベーションを加速しています。

プリンティングイノベーションのエコシステム



エプソンは、独創のインクジェット技術をコアにハード・ソフト2つのプラットフォームで構築したプリンティングイノベーションのエコシステムで、社会課題の解決に貢献する新たな価値を創出・提供し続けていきます。

数字で見るエプソン

事業

エプソングループ会社数

82社 (当社含む)
(2024年3月31日時点)

連結従業員数

74,464名
(2024年3月31日時点)

海外従業員比率

73%
(2024年3月31日時点)

海外売上比率

83%
(2023年度連結売上収益)

サステナビリティ

使用電力の再生エネルギー転換率

100%*¹
(2023年12月達成)

→ 詳しくは、P.37-42「環境戦略」参照

サステナブル資源率

32%*²
(2023年度実績)

女性管理職比率

16%
(2024年3月31日時点)

全取締役占到める社外取締役比率

55%
(2024年6月末時点の員数)

→ 詳しくは、P.61-76「ガバナンスの強化」参照

グローバルネットワーク



グローバルネットワーク

詳しくは Webへ <https://corporate.epson/ja/about/network/global.html>

1968年、エプソンは初の海外生産拠点をシンガポールに設立して以来、時代によって、地域によって、さまざまなお客様のニーズを的確に把握し、素早く、柔軟に対応するために、販売・サービス拠点をはじめ、生産や開発拠点を世界各地に展開しています。

Epson Europe B.V.



欧州
2,498億円

Epson (China) Co., Ltd.



中国
1,675億円

セイコーエプソン株式会社
本社(日本)



日本
2,233億円

Epson America, Inc.



北米
3,069億円

アフリカ・中東
396億円

Epson Singapore
Pte. Ltd.



アジア・
オセアニア
2,036億円

南米
1,230
億円

- 日本国内
- 販売・サービス拠点
- 地域統括
- 支店
- 生産拠点
- 開発拠点

地域の円は、売上収益(2023年度連結)を示しています

グローバルシェア情報

No.2



インクジェットプリンター
(数量)^{*3}

32%

No.3



プリンター市場
(レーザープリンター含む、
数量)^{*4}

20%

No.1



プロジェクター
(スクリーンレスTV製品を除く
500ルーメン以上、数量)^{*5}

51%

No.1



水平多関節(スカラ)
ロボット
(数量)^{*6}

22%



水晶発振器
(金額)^{*7}

24%

*1、*2、*3、*4、*5、*6、*7の注釈は、裏表紙へ